



4 3



2 1



- 1/ 小巾の縦板とベランダの横格子のラインが特徴的な外観。
- 2/ 玄関側より見た広間。薪ストーブの背面と炉台の石は伊豆の若草石。薪ストーブはヨツール F250。施工こだわりの一品。
- 3/ 和室より見た広間。南面の大きな窓が開放的。
- 4/ オリジナルキッチンは、ステンレス天板とタモも無垢材で作られている。施工さんが一生懸命磨いてくれたニレのカウンターが美しい。
- 5/ 庭より、広間を望む。薪ストーブの火を中心に、家族の会話が弾みそう。



5

(設計者) 文 コロポ 山崎 (健治)

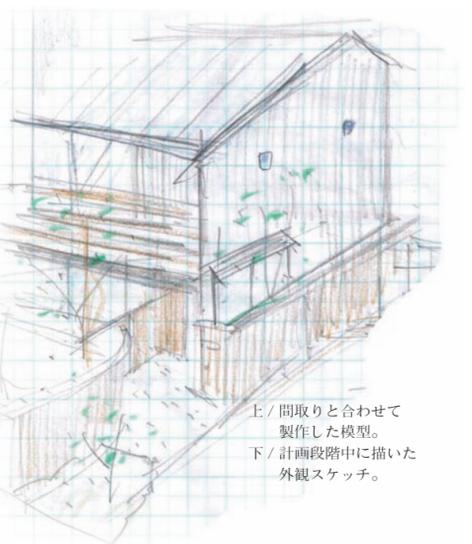
Uさんご夫婦も、素材や設備を熱心に出し出して来てくれ、洗面台・トイレ・浴槽などは白を基調としたすっきりとしたものを、またタオル掛けやペーパーホルダーなどの細かな部材も、この家に合ったシンプルな物を揃えることが出来ました。そしてUさん自らの外壁に合わせ、幅の狭い板を使用して板塀を作った下がり、外観もまた、木を使いながらもすっきりとした印象の家になりました。

シンプルさと木の魅力を持った『木箱の家』は、シンプルさ故に住む人の生活に違和感無く溶け込み、暮らしの変化に対応した住まいになっていくと思います。また、この家に使われている沢山の木は、長い年月の中で、経年変化と共に家族に馴染んでいくでしょう。そして、いつまでも心地良く暮らすことの出来る家となつて、家族を包み込んでくれる事を願っています。

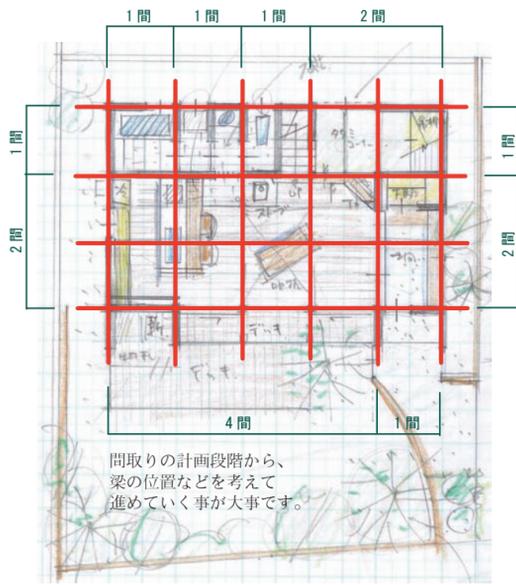
## 「木を全面に出しながらも シンプルな家を作りたい。」

「木箱の家」の施工・Uさんの希望は、「重厚な木の家ではなく、すっきりとした、とてもシンプルな家」。でも「木がとも好き!木に包まれて生活したい」。この二つの希望は、ともすると矛盾してしまう内容でした。「シンプルな家」というと、一般的には柱や梁を覆い隠して計画することが多いのですが、それでは木の性能や良さが発揮されません。また柱や梁を隠さず壁に塗装を塗って白い部分を多くすれば、木の良さを活かすことは出来ますが「木に包まれて...」という言葉にはなかなか物足りません...。それとは逆に、木を全面的に出し過ぎると木の重厚さや圧迫感を感じ、「すっきりとした家」という希望から離れてしまいます。そこで「木箱の家」では、壁や天井に全面的に杉板を使いながら、柱や梁の組み方に着目し、木組みの間隔や大きさを揃える事で、見た目に軽やかでリズムカルな印象の家にしうと思いました。こうする事で、壁全面に板倉の杉板を現しても威圧感無く、全体的にすっきりとした家になり、木の良さも引き出し出していると考えました。また、障子の棧やキッチンなどの家具の造りも、余分な線を出さないように設計したり、部屋の開口部をなるべく大きく造って壁の威圧感を少なくし、柔らかな庭の雰囲気を取り入り込めるようにしました。さらに、バルコニーの手摺や窓格子には細かな間隔で木を使い、素材感と繊細さを出すように工夫しました。

完成現場  
木箱の家



上/ 間取りと合わせて製作した模型。  
下/ 計画段階中に描いた外観スケッチ。



『木箱の家』計画中の時の手書き図面は、梁の位置を示す。



『木箱の家』の建前の様子。6尺「一間」ずつ、上下に梁が掛かり、見た目にも安心感を与えてくれる。

「木箱の家」の間取り  
 実際に木箱の家の間取りを見てみると、間口3間の中に(キッチン2間)+(浴室1間)、また(玄関と収納で2間)+(畳スペース1間)が納まっています。奥行5間の中に(玄関1間)+(広間とキッチンで4間)、また(畳スペース2間)+(階段1間)+(洗面と脱衣で1間)+(浴室1間)を配置しています。間取りを6尺「1間」のサイズで区切って見ると、その線上にちょうど壁や建具が来るように計画されているのが良く解ると思います。この様に木箱の家の間取りは、居室と収納・階段と水廻りなどを組み合わせていきながら、6尺基準になる用に配置していきながら、間取りが整理されていくと、梁の掛け方もとても規則正しく掛けることができます。建前の時の写真を見ると梁の掛け方が解ると思いますが、6尺ずつ、上下に梁が掛けられ、見た目もしっかりとした梁組みだと感じられると思います。

## 「間取り」と「構造」を共に考える。

「間取り」「構造」だった！  
 家づくりの中で一番の楽しみは、やはり家の間取りを考えている時ではないでしょうか。夫婦や子供達と話し合い、新しい我が家の生活を想像しながら考えていくと、時間を忘れてしまいます。家族みんなのスペースは、やはり明るく開放的に、風通し良く、洗面・トイレなどの水廻りに、風通感のある場所に。玄関には大きな収納が欲しい。家族それぞれの思い入れも強く、希望を上げていったらきりが無いほどですが、この時忘れてはいけないことは家の間取りは直接家の構造と結びついていると言う事です。大きく開放的な空間にはそれなりの無理も生じますし、上下階の壁や左右の壁が合わない、バランスの悪い家になってしまいます。間取りを考えると、同時に家の構造を考えているという事になるのです。闇雲に間取りだけを考えるのではなく、間取りと構造のそれぞれにバランスの取れた計画が、家の耐震性・耐久性につながっていきます。

6尺というサイズとは  
 今回ご紹介する『木箱の家』では、6尺(198cm)というサイズを基準にして間取りを計画しました。6尺とは1間とも呼ばれ、ちょうど大人が手を横に広げた大きさに近いサイズです。このサイズは家のあらゆる箇所にあるサイズで、畳の長さや、窓や出入り口の高さ、洋服タンスもちょうどそのくらいですね。こうしてみると良く解りますが、6尺と言うのは人の大きさを基準にしたサイズなのです。  
 この6尺というサイズで造る間取りは、人にもちょうど良いサイズですが、実は木材にとってもちょうど良い長さなのです。山で伐採される木材は、山から搬出される為に運搬に適したサイズに玉切りされていきます。当然、用途によっては長い材も出されますが、一般的に4mのサイズに玉切



運搬しやすいように、ほぼ4mに玉切りされた丸太。

りされ搬出されていきます。この4mと言う長さは「丈三(じょうさん)」「丈三尺(113尺)」と呼ばれ、昔から柱や梁の長さとして使われてきました。間取りを6尺基準に計画していくと、この丈三と呼ばれる4m材で6尺2つ分の、12尺(360cm)の長さが取れることになり、残りの1尺で継手などの余長を取る事が出来る為、無駄の無い長さと言う事になります。そして、6尺・12尺を基準に柱を設ける事で、荷重を無理なく柱に伝える事が出来る構造も安定し、適度な太さの木材で計画する事も出来ます。当然、コストも抑えていく事にもつながります。

では6尺のサイズを使って具体的に間取りをどのように考えていくかと言う事になるのですが、実は古民家などで見る「田の字」の間取りが、まさにこのサイズなのです。田の字の間取りは、例えば(8畳の部屋が4つ)といった組み合わせで構成されています。しかし幾ら合理的だからと言っても、現代の住まいとしては「田の字プラン」ではよほど行きませんよね。実際には、収納や水廻りなども組み合わせ、上手に間取りを造って行くことになり、これがなかなか難しいものです。構造優先！と割り切っていればよいのですが、その為に無駄なスペースや窮屈な部屋になっても困ります。要望と大きさ、各部屋のつながりを考えながらじっくりと進めていかなくてはなりません。

### 構造を忘れずに

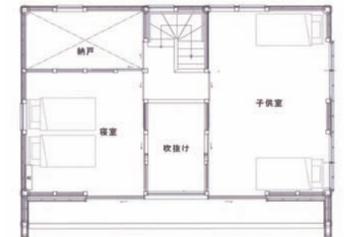
現代の多くの家は「大壁」と呼ばれる工法で、柱や梁などの構造材が石膏ボードなどの壁に覆われています。この工法では、出来上がった家の何処に柱があっても、梁がどの様に掛かっているのか全くわかりません。最終的に見えなくなってしまうという事で、少々不揃いな構造でも間取りを重視した計画が優先してしまう事もあると思います。それに対し、伝統的な工法などに多い「真壁」と呼ばれる工法は、柱や梁などの構造材がほとんど現しになる為、その位置が目で見えて解ります。見るといっても大切な事で、おのずと柱や梁の位置も整理されて考えられていきます。どのような工法で家造りを行うとしても、構造のことは忘れずに検討したいものです。

間取りと構造に深い関係があることは、当然と言えば当然の話でしょう。しかし間取りの打合せをしていくと、構造の事を忘れて間取りの事を優先してしまいがちです。そんな時に間取りと構造は結びついているという事を思い出し、どちらにもバランスの取れた計画をしていくことが大切ではないでしょうか。私達設計者も、構造をおろそかにすることなく、よい間取りを考えていきたいものです。(文/山崎 健治)

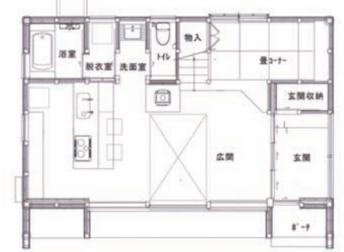
### ちなみに

主な壁のあるラインを耐力壁線と呼び、構造上重要なラインになります。もし壁があらゆる方向に散らばっていると、それぞれの壁が十分耐力を発揮できず、形ばかりの耐力壁となってしまう。また耐力壁線と耐力壁線の距離が長いと、これも地震時の力を手早く伝える事が出来ず、不安定な構造になってしまいます。このような壁のはらつきを補うために、2階の床を厚い合板などで打ち付け、壁の耐力を発揮させる構法も有りますが、まずは、整理された構造を考えていく事をお奨めします。

## HOUSE DATA



2階平面図



1階平面図



- 1/ アプローチより玄関を望む。樺で作ったバーハンドルは、建具屋さんの苦心の作。
- 2/ 家のあちこちに作った木製の給気口。玄関の給気口には必要に応じて開閉出来るように、板戸・網戸・雨戸が付いている。
- 3/ 施主さんアイデアの階段収納。5段有り、色々小物が入りそう。
- 4/ 玄関土間と居間の間を仕切る、3枚引き込み障子。日差しが透けて、障子の棧が部屋の雰囲気盛り上げてくれる。
- 5/ 2階の子供室は、屋根裏を活かして開放的にした。



### 仕様内容

家族構成	夫婦、子供1人
敷地面積	217.61㎡
建築面積	60.69㎡
延べ床面積	94.39㎡
構法	落とし込み板壁構法 2階建て
竣工	平成19年7月
外部仕上げ	屋根 ガルバリウム鋼板 横葺き 外壁 ガルバリウム鋼板 角波縦張り+杉赤身板 縦目透かし張り 外部建具 オリジナル木製建具(米ヒバ)+金属建具(YKK) 玄関引戸/ナラ材
内部仕上げ	天井 杉板張り 壁 落とし込み板(杉本実板 厚30mm)現し+杉本実板張り 厚12mm 床板 杉本実板張り 厚30mm 内部建具 オリジナル木製建具(杉・米ヒバ)
設備	キッチン オリジナルキッチン 天板/ステンレスヘアーライン 洗面 オリジナル洗面台 カウンター材/タモ 手洗器/TOTO 浴室 壁/サワラ本実板張り 厚12mm 天井/サワラ本実板張り 厚12mm 床/伊豆若草石張り 厚24mm 浴槽・水栓/TOTO 照明器具 DAIKO, KOIZUMI
設計者	山崎 健治

① 奥様が細かい収納を熱心に考えた。  
 ② カウンターの止に手洗いを乗せただけの、シンプルな洗面台。でも見えない所で大工さんの苦労があった。  
 ③ 伊豆石とサワラ板を使い、香りと色合いがとても爽やかな浴室になった。

